

Weekly Market Report

Jul 13, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

新型コロナウイルスの再拡大懸念から、リスクオフによる更なる円高進行に注意

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は、週央までは107円台半ばで揉み合う展開となり、週末にかけては本邦における国内感染者再拡大による懸念から円高が進行し、107円を割り込んで週末を迎えた。週前半は景気刺激策への期待感から株高を背景とした円売り圧力に加え、良好な米ISM（結果57.1/予想50.0）を受け、7日の欧州時間には週最高値107円台後半まで上昇。しかし、節目となる108円を目前に滞空時間は短く、コロナ感染第二波や米中対立への懸念が根強い中、週後半は107円台前半でもみ合う展開となった。また、週末にかけては東京を中心に本邦の感染者再拡大による景気先行き不透明感が広がったことから、一時6/24以来となる週間最安値106.65円まで下落したが、やや下げ幅を戻して106.89円で越週した。今週のドル円相場は、コロナ感染再拡大や米中対立への懸念が根強い中、引き続き上値は重く、リスクセンチメントの変化による急な下落に注意したい。（市場営業部/福永）

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
7/14(火)	(米国) CPIコア指数<前月比>	0.1%
7/15(水)	(日本) BOJ、黒田総裁発言	-
7/16(木)	(中国) 2QGDP<前年同期比>	2.5%
7/16(木)	(欧州) ECB、ラガルド総裁発言	-
7/16(木)	(米国) 小売売上高	5.0%

USD/JPY (5年間)



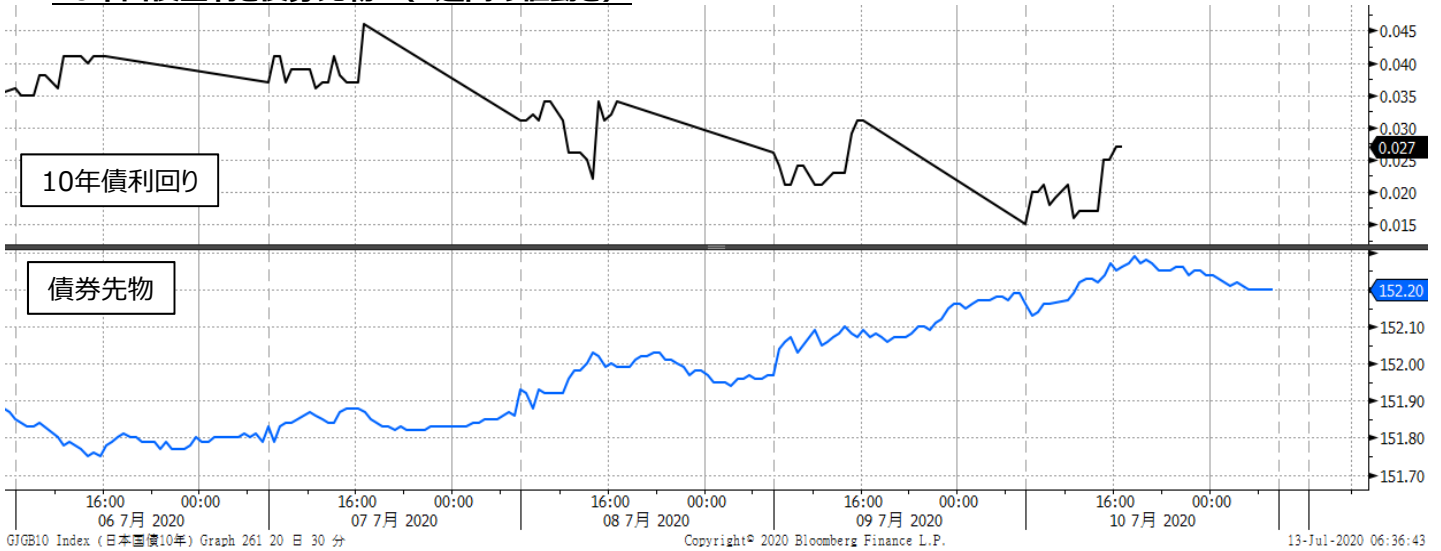
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山添進一	105.80 - 108.00	今週も上値が重い展開を予想。世界的な株価上昇も、新型コロナ第2波リスク及び世界的な貿易戦争再開に注意。
治久丸智文	106.00 - 108.00	引き続き狭いレンジでの推移を予想するが、コロナウイルス感染拡大・米国の対中圧力強化等の波乱要因に注意が必要。

2. 円金利相場概況

日銀会合は現状維持が予想される。注目は米国におけるCOVID-19拡大状況と企業決算

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

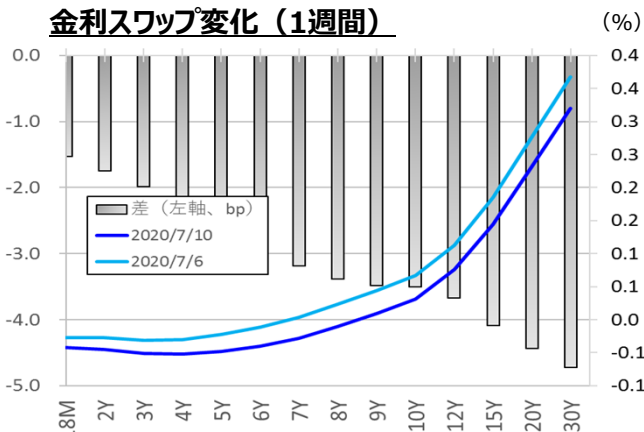


コメント

(出所) Bloomberg

先週の10年長期金利は0.06%台から0.03%台に下落した。米国での新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大を受けてリスク回避の債券買いが進んだこと、増発の影響が警戒されていたものの入札を順調に消化したことが背景にある。今週は日銀金融政策決定会合が予定されているが政策の現状維持が見込まれており、海外市場の動向を見ながらの1週間となりそう。引き続きCOVID-19の感染拡大状況に注目が集まるが、今週は米国で重要な経済指標（小売売上高、地区連銀の製造業景況指数）が発表される予定で、加えて米国企業の決算発表が本格化する週となる。金融大手とネットフリックス<NFLX>の決算でロックダウンから経済活動再開時期の企業業績を探る手掛かりが得られ、その内容次第では他企業の決算に対する警戒感が強まり、株売り・債券買いの展開もあり得ると予想する。（市場営業部/高橋）

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	▲0.01% - 0.04%	米国企業決算や、良好な経済指標の発表期待で、リスクオンからの金利上昇を予想。
伊豆浦有里恵	▲0.02% - 0.03%	国債増発による需給悪化懸念の後退や、新型コロナ感染再拡大の懸念を受けて、債券相場は底堅く推移。

3. 今週のトピックス

IMMポジション（投機筋）から見る為替相場見通し

コロナ復興基金が頓挫するようならユーロロング巻き戻しによるユーロ売りが

IMMポジションとは

IMMポジションとは、米商品先物取引委員会（CFTC）が通貨毎の建玉明細を集計し、当該週の金曜日の取引終了後にHP上で公表しているものである。建玉明細の大口玉は報告義務があり、投機玉と商業玉に分かれ、市場は特に投機玉の建玉明細に注目する。

<ポイント>

ネットポジションがロングかショートかニュートラルかにより、投機筋の相場観が強気か弱気かニュートラルか推測できる。

円、ユーロ、英ポンドのポジション動向

米ドル円ポジションは昨年7月にFRBが利下げに転じたことを契機に一時円ロングへとポジションを反転させる動きが見られたが、米中貿易摩擦の緊張緩和を受けて円ショートポジションを構築。その後、3月のFRB緊急利下げを契機にポジション解消の動きが加速し、足元は円ロングへと切り替わっている（図1）。ユーロ米ドルポジションは2018年後半より一貫してユーロショートを維持してきたが、FRB緊急利下げを契機にポジションが反転。足元ではユーロロングが10万枚を超える水準まで積み上げている（図2）。英ポンド米ドルポジションは昨年7月ボリス・ジョンソンが首相就任したことにより一時10万枚を超える水準までポンドショートが拡大したものの、その後はポジションを手仕舞う動きが加速。一時ポンドロングへと切り替わるも、足元ではポンドショートとなっている（図3）。

ユーロロング巻き戻しによるユーロ売りに注意

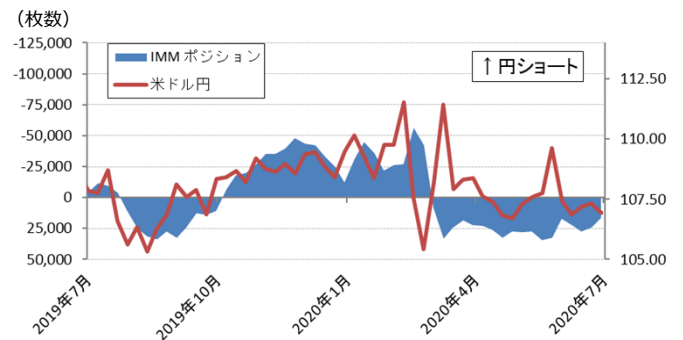
上述の通り、FRBがゼロ金利政策や実質無制限QEを導入したことにより、投機筋はユーロショートポジションを急速に解消。足元では10万枚を超える水準までユーロロングを積み上げており、今後はポジション巻き戻しを警戒する必要があるだろう。

コロナ禍によりセッション入りしたユーロ圏経済立て直しを目的として、仏独が提唱するコロナ復興基金（7,500億ユーロ）に注目が集まっているが、全会一致を原則とするEUにおいてオランダ等4か国が反対の意を表明しており、その実現性には疑問が残る。ラガルドECB総裁は金融緩和だけでなく財政出動の必要性を各国政府に訴えており、コロナ復興基金に合意できなければ市場のセンチメントは反転し得ると釘を刺している。

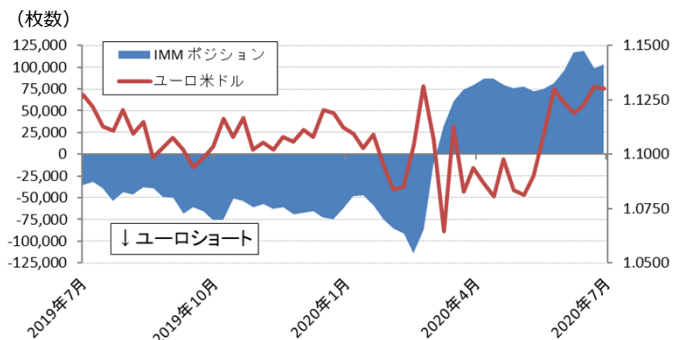
今週は16日にECB理事会、翌日17日にはEU首脳会議が予定されている。コロナ復興基金についてラガルド総裁がどのような発言を行うか確認するとともに、EU議長国であるドイツのメルケル首相が今会議で合意に向けた成果を上げられるかどうか注目したい。コロナ復興基金が頓挫するようであれば、ユーロロング巻き戻しによるユーロ売りが強まるだろう。

（市場営業部/浅川）

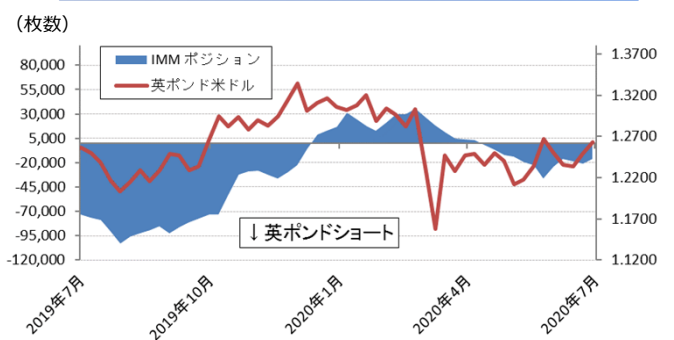
【図1】米ドル円（過去1年間）



【図2】ユーロ米ドル（過去1年間）



【図3】英ポンド米ドル（過去1年間）



（出所 CFTC、Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会